

ふれあいファームきららの風 田んぼの楽校

雲母峰の麓に位置する水沢町は、県下有数の伊勢茶産地として知られます。この水沢町の宮妻地区で、休耕田を活用した農業体験や、ふれあいイベントなどを行っているのが、市民活動団体「ふれあいファームきららの風 田んぼの楽校」です。平成23(2011)年に結成以来、地道ながらも真摯に活動を続け、本年度からは新たな試みにも挑戦しています。



前田 佳男代表

お問い合わせ

「ふれあいファームきららの風 田んぼの楽校」
TEL 090-4256-2341
(前田 佳男代表)

「ふれあいファームきららの風 田んぼの楽校」の活動場所は、紅葉の名所「もみじ谷」に近い場所に広がります。秋の訪れが待ち遠しい8月下旬、親子でカカシを作る体験「昔ながらのカカシを作ろうよ！」準備中の前田 佳男代表にお話を伺いました。

——前田さんは、青少年育成施設「四日市市少年自然の家」の所長時代から、同楽校の構想を温めていたそうですね。

前田：はい。「四日市市少年自然の家」在職中、野外活動や環境学習に取り組み子どもたちの姿を見ってきました。その中で、子どもの自主性を尊重できる環境づくり、子どもの居場所づくりが必要だ

と感じていました。同時に、私たち大人も含めて「食べ物にはスーパーで買う」ときに疑問を持たず、農業のすばらしさや大切さが忘れられているという危機感もありました。そのころ、休耕田3反(900坪)を提供してくれる話があり、農業体験を通じて、心の栄養補給に役立つことができなかつたかと考えるようになり、それと、退職と同時にサポートしてくれる仲間たちと一緒に本格的に取り組み始めたのです。

——結成以来、自然環境に配慮した昔ながらの農業体験にこだわってきたと伺いました。今年度の主な活動内容について教えてください。

前田：活動内容は年度ごとに変えてい

での作業体験を定期的に行っています。ジャガイモ・サツマイモ・ピーマン・オクラなど、季節ごとの野菜の種まきに始まり、除草や堆肥作り、収穫体験など、1年を通して盛りだくさんとなっています。



「昔ながらの餅つき体験」※

——7月に作られたカカシは、個性豊かで愛らしいものばかりですね。制作中の子どもたちの楽しそうな様子が目に浮かびます。また、今年度からは新たに環境緑化推進事業も始めたと思いませんか。

前田：そうですね。実は近くの休耕田4反(1200坪)を新たに活用することになり、今年度から準備を進めています。秋になったら、ここにレンゲの種をまく計画です。レンゲは窒素が多くて緑肥になるため、昔は田んぼに植えられていました。その光景を再現したいと思って

います。すると、ニホンミツバチを守る活動をしている養蜂家の友人から、環境活動の応援をしたいので巣箱を置かせてほしいという話があり、協力し合うことになりました。

——ありがとうございます。お話を伺っていて、前田さんの子どもたちや自然に対する深い愛情が伝わりました。来春には、「ふれあいファームぶんぶん」と名付けられた田んぼ二面にレンゲが咲き誇り、ニホンミツバチが飛び回っていることでしょうか。

インタビュアー：中村 真由美



古着などを再利用して作られたカカシ



「昔ながらのカカシを作ろうよ!」※



「水沢かかし祭り」の様子※



「ふれあいファームぶんぶんぶん」



「お茶摘み体験」※